



	徳育科のパイオニア コミュニティ・スクール 八小だより 武蔵村山市立第八小学校 平成28年7月1日 http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmced8s/index.html	教育目標 ◎ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ やりとげる子
		行動目標 わけをそえて話すことができる子 教室で話しているのは一人

「八小STOP運動」がめざすこと

副校長 柴田 忠幸

「廊下は 走っちゃだめだよ」「ろうかは あるくんだ」

職員室前の廊下から、聞こえてくる子供たちの声です。本校の児童会活動の一環として、6月20日(月)から1週間、「八小STOP運動」に取り組みました。(※八小STOP運動…校内で走らず、安全に過ごせるための、代表委員会を中心とした活動です。)

この活動に先立ち、6月20日の全校朝会で「なぜ廊下を走ってはいけないのか」、子供たちからその理由を聞きました。そして、その1週間後の全校朝会で、廊下を走っているときに声を掛けられた際、走ることをやめた児童2名にその理由を聞きました。2名の答えに共通するのは「走ると危ないから」という主旨でした。そこに、「八小STOP運動」の取組の成果があります。つまり、掛けられた言葉をきっかけにして、その2名は「廊下は歩くことが相応しい」という判断を自身で行い、実行に移したということです。

さて、学校でのこの学びを通して、家庭生活に活かす知恵と実行力として身に付けたとします。例えば「廊下は」を「歩道は」に置き換え、「(歩道は)歩くことが相応しい」という判断を自身で行い、実行に移したとします。結果として期待するのは、「走ってくる下校中の八小の子供にぶつかりそうになって危なかった。学校は歩き方を指導しているのか?」というお叱りの電話がなくなることはありません。

その児童自身が将来に渡って、一人の社会人として関わる人たちに受け入れられながら生活するという事です。学校から一歩外に出れば、小学生であっても一人の社会人として生きています。私たちは、目の前の子供たちにその学び方を身に付けさせようと、日々全身全霊をかけています。学校がその都度「御理解・御協力をお願い」するのは、本校の教育活動が将来に渡って一人の社会人として関わる人たちに受け入れられながら生活するためであるという理解と、その姿に向かって保護者の皆様ができることを、保護者の皆様にもお願いするのです。

「廊下は 走っちゃだめだよ」「ろうかは あるくんだ」

八小STOP運動が終わって1週間が経つ今でも、職員室前の廊下から時折聞こえてきます。「未だに廊下を走る子供がいる」という解決すべき課題はありますが、「今もなお規範意識を高く保っている子供たちがいる」ことを裏付ける言葉だと捉えています。

夏季水泳教室の御案内

今年度も以下のように夏季水泳教室を開催いたします。水に浸かる気持ちよさ、泳ぐ楽しさはもとより、水泳は水の事故から自分自身の命を守る学習でもあります。数多く参加できますようよろしくお願いいたします。

月	7月						8月			
	22	25	26	27	28	29	22	23	24	25
日	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木
A 9:00~	3年	2年	1年	3・4年	4年	5・6年	2年	1年	2年	1年
B 10:40~	4年	5・6年	3年	5・6年	2年	1年	1年	3年	3年	2年
C 13:30~	※ 個人面談期間のため実施しません						4年	5・6年	4年	5・6年